

平賀駅周辺中心市街地活性化の戦略的再構築 一般質問の質疑応答(ポイント整理)

～ 公園を核とした次世代型まちづくりは、本当に人が集まり、まちの活力につながるのか ～

1 コンセプト・位置づけ

Q 平賀駅周辺は、都市構造の中でどのような役割を担うエリアか。公園から始まるまちづくりの妥当性と経済への効果は。

A 市民の生活の質の向上を起点とし、居心地が良く歩きたくなる空間を創出し、結果として選ばれるまちを目指す。公園を核に駅から中央公園・市役所周辺までをつなぎ、回遊性を高め、既存店舗への立ち寄りや空き店舗活用など、一定の経済的波及効果を期待。



公園を核にまちなかへ回遊

平賀駅周辺の将来イメージ(構想)



2 日常利用の仕組み

Q イベントだけでなく、平日でも自然に人が集まり、滞在する場所となるための仕組みは。

A 公園のような心地よさをまちなか全体に広げ、自然な日常利用を促す。ワークショップでは、休憩施設・広場・カフェなど長く滞在できる空間や、民間事業者・市民団体が活動しやすい仕組みづくりが提案された。平日でも市民が自然に訪れ、交流が生まれるまちを目指す。



3 冬季利用の仕組み

Q 積雪地であり、冬期間も人が集まり滞在できる空間をどのように考えるか。屋内施設や大屋根広場などは想定しているのか。

A 冬でも利用できる施設のニーズは高い。ワークショップでは、屋内遊戯施設や大屋根広場の意見が多く出された。今後、具体的な整備検討の中で、冬季の特性を踏まえた空間づくりを検討していく。



屋内施設・大屋根広場のイメージ
(冬でも快適に過ごせる空間)

4 交通戦略

Q 来訪者数や交通手段別の想定はあるか。弘南鉄道の事業見直しなどのリスクも踏まえ、鉄道だけに依存しない交通体系をどう考えるか。駐車場・駐輪場の確保はどうするか。

A 現時点では来訪者数や交通手段別の内訳は未設定(構想段階)。公共交通の利便性向上を課題に挙げ、弘南鉄道のほか、バス・自転車・他の交通機関も含めた多様な移動手段の環境づくりを目指す。今後、具体的な整備計画の中で、周辺の交通量や市民ニーズを精査し、駐車場・駐輪場の連携や増設の必要性についても検討する。



多様な交通手段で来訪しやすい環境づくり

5 推進体制(エリアマネジメント)

Q 都市計画・商工・観光・交通など多くの分野にまたがる政策であるが、エリアマネジメントを担う専任部署や体制を整備する考えはあるか。

A 構想では具体的な推進体制までは記載していない。一定の道筋がつくまでの段階では、みらい戦略室が中心となり、関係部局と連携して進める。エリアマネジメントの視点は重要と認識している。



6 成果指標・データ活用

Q 歩行者通行量や滞在時間、空き店舗率など成果指標は設定しているか。データを収集し、検証・改善していく仕組みや、市民への公表は。

A 現時点では具体的な数値目標は未設定(構想段階)。今後、事業化の段階で、歩行者通行量・滞在時間・来訪者数など実効性のある指標を検討する。AIカメラ等を活用し、継続的にデータを収集・検証し、必要に応じて事業を見直す仕組みを構築する。検証結果は、市業への公表を行い、透明性を高めていく。



歩行者通行量 滞在時間 属性 イベント時との比較など
(年齢・性別など)

主な成果イメージ(期待される効果)

- ✓ 歩行者通行量・来訪者数の増加
- ✓ 空き店舗の減少・新規出店の促進
- ✓ 既存商業施設への立ち寄り増加
- ✓ 民間投資の誘発
- ✓ 市民の交流・にぎわいの創出
- ✓ まちなか居住の推進

主な課題

- ✓ 若年層の来街・滞在時間が短い
- ✓ 冬期間の利用促進
- ✓ 公共交通の維持・利便性向上
- ✓ 駐車場・駐輪場の確保
- ✓ 施設の維持管理コスト
- ✓ エリア全体の回遊性向上
- ✓ 継続的なデータ収集と検証

7 今後の展開(市の考え)

現在
(構想段階)

- ・ 考え方の整理
- ・ 現状分析・課題把握

次の段階
(整備計画)

- ・ 具体的な整備内容の検討
- ・ 交通・駐車場・運営手法の検討
- ・ 成果指標の設定

事業化・整備

- ・ ハード・ソフトの一体的整備
- ・ 民間事業者の参画
- ・ 冬季利用を含めた運営計画

継続的な運営・検証

- ・ データ収集・効果検証
- ・ 必要に応じた改善
- ・ 市民への公表



私の提言(一般質問のまとめ)

- ✓ まちづくりは整備して終わりではなく、データに基づき検証し、改善を重ねていくことが重要。
- ✓ 若い世代も含め、多くの市民が訪れ、愛着を持てる中心市街地となるよう、長期的・持続的な視点で取り組むことを期待する。